

航空自衛隊浜松基地に
空前の和服女性パイロット出現？

杉崎孝雄 新制八期

PKO協力法案・世界平和のための人的貢献など、国内に議論は沸いているものの、まず先兵となる自衛隊そのものを勉強するのが先決ではないか。という、根が勉強大好き人間の北島茂氏(旧姓八森)の発案から、われわれ新制七期及び北校同期卒業生の総勢二十二名は、平成五年一月二十二日浜松へ向かい、浜松駅から自衛隊の専用バスで同期生である那須秋男司令官の待つ航空自衛隊浜松基地へ直行する。



まず幹部食堂にて、同隊の幹部自衛官たちとともに昼を会食。何分にも何から何まで目新しく、一行は高校はおろか、はるか小中学生に戻って喜々とはしゃぐ。司令官室前の大応接室では、斉藤一佐が自衛隊の概略・現状について、秋田弁での講義をする。「わが自衛隊のただ一つの弱点であると同時に世界に誇る美点は、一度も実戦経験がないことです」の言葉で終わった解説の後、質疑に入る。「小山、そしたこともわがねのがおめエ、廊下で立ってろ！」と、またまた童心に戻る。

空港展望から管制塔見学。この日自ら案内役をかって出たという秋田県出身の教官パイロット阿部三佐の補佐で、一人ひとりパイロット席に乗り込む。なかでも圧巻は菊池悦子さん。和服姿で自衛隊機のコックピットに座るのは、絶後とは言えないが空前とのこと。そしていよいよこの日の目玉商品、フライト・シミュレーターによる飛行体験。阿部三佐の指導のもと、予想外に軽いシヨックとともに飛び立ったジェット機は、編隊飛行、濃霧突入、旋回ほか、天地がひっくり返る体験の後、富士山に向かって直進、無事基地に帰還した気分。

最後は任務を終えた那須司令官も合流して、浜名湖を望む国民宿舎『奥浜名湖荘』での新年会。例によつてのドンチャン騒ぎで締める。



新制七期同期会 航空自衛隊浜松基地司令官室で

平成5年1月22日

(前列左より)佐良土桂子, 森田恒明, 菊池悦子, 那須秋男司令官, 倉橋昭子, 梶 豊彦, 小貫 実, (中列左より)大塚志保子, 高橋佳代子, 落合士郎, 塩谷ヒデ, 梶 節子, 高槻照子, 岡部 忠, 港 治, (後列左より)小山哲道, 工藤尊久, 杉崎孝雄, 唐津光成, 北島 茂, 須藤祥夫, 京敬之介, 民谷恒二, (夜の新年会のみ参加 田中 秀)《以上, 敬称略》



新制三期 樽子山会 平成五年二月六日
西池袋 酒処「小頭」にて
出席者 伊藤康孝 江坂昭夫 雄鹿春勝 小野
茂 柏木祐一 菊池弘吾 坂本修 竹内京一
信太吉 工門 谷藤義郎 保坂隆司 八杉和男
山谷正勝 渡辺利広 事務局・八柳昭義



新制十一期 123会(ヒフミカイ)
平成五年二月六日 池袋北口 酒蔵「秋田屋」
出席者 本庄喜代彦 佐藤重秋 太田勝治 赤
塚修三 加賀宏義 越前谷孝臣 石川正順 宮
腰瑞夫 田中善明 畠辰宏 港記久郎 田口俊
夫 大越善蔵 長谷川哲郎 赤塚鉄夫 宮腰興
紀 鈴木元紀 佐藤美美江 本庄瑞彦(新制十
七期) 港記久郎夫人



新制十四期 三十七年卒能代地区高校合同懇親会
平成五年一月二十八日
能代高・北高・工業高・商業高・農業高の各校
三十七年三月卒業の東京近郊在住者 約百名
新制十四期の濱屋裕一氏が中心になり、市内
五校同期生が池袋「メトロポリタンホテル」に
集まり、懇親会を開催した。